

Christopher Simpson 著

『ディヴィジョンーヴァイオリン，すなわちグラウンド上の即興演奏技法』

第2版より

献辞 および 推薦文

(訳)

竹下可奈子 (本講座大学院博士課程後期在学)	能見義史 (本講座大学院博士課程後期在学)
堀田佳苗 (本講座大学院博士課程前期在学)	山本千尋 (本講座大学院博士課程前期在学)
土居由里子 (本講座大学院博士課程前期在学)	福井可奈 (本講座大学院博士課程前期在学)
瀬川恵 (本講座大学院博士課程前期在学)	向田あかり (本講座大学院博士課程前期在学)
藤村安紗美 (本講座大学院博士課程前期在学)	平山裕基 (本講座大学院博士課程前期在学)
山岸美貴 (本講座大学院博士課程前期在学)	西谷奈菜 (本講座大学院博士課程前期在学)
田中彩夏 (本講座大学院博士課程前期在学)	藤井愛子 (本講座大学院博士課程前期在学)
能登原由美 (本学大学院教育学研究科)	千葉潤之介 (本学大学院教育学研究科)

Christopher Simpson

The Division-Viol, or, The Art of PLAYING Ex tempore upon a GROUND. EDITIO SECVNDA

Dedication & Recommendation

(Japanese Translation)

Kanako TAKESHITA	Yoshifumi NOUMI
Kanae HOTTA	Chihiro YAMAMOTO
Yuriko DOI	Kana FUKUI
Megumi SEGAWA	Akari MUKAIDA
Asami FUJIMURA	Yuhki HIRAYAMA
Miki YAMAGISHI	Nana NISHITANI
Ayaka TANAKA	Aiko FUJII
Yumi NOTOHARA	Jun'nosuke CHIBA

バトロン ジョン・ポールズ準男爵閣下へ捧ぐ

この著作の初版¹は、あなた様の亡き父上に捧げられました。それには正当な理由があったのです。つまり、この種の献呈を行うあらゆる動機のために私はそうせざるを得なかったからです。第一に、お父上が音楽と音楽家のもっとも高名なバトロンであったこと。第二に、お父上が音楽愛好家であるだけでなく、偉大な演奏者でもあったこと。第三に、あなた様がまだ幼い頃、かの著作〔初版〕がお父上の援助によって構想され誕生し、そして完成したこと。最後に、お父上が私にとって特別なバトロンであったこと。すなわち、邪悪な時代²に私（および同じような不幸にある多くの人々）が助けを必要とした時、お父上は心からの援助をしてくださったのです。

その初版はすでになくなり、重版を懇願されております。この第二版は、あなた様の御手に口づけをし、ご後援を得るがために今ここにあります。それはあなた様がお父上にとっての直接の相続者、後継者であり、お父上のご身だけではなく、その尊厳や品格、美德等も同様に受け継いでおられるからです。またこの献呈では、以前の版には無かった利点がいくつかあります。一つには、〔以下に述べるように〕あなた様こそがこの本の〔出版の〕重要な契機となっているので、もしこの本に何らかの価値があるならば、世間はあなた様に感謝するでしょう。なぜならこの本は、あなた様の大切な学業の余暇に使用する音楽の手引きとして考案され、もたらされたからです。またこの本は、あなた様のために作られたので、（ご自身の創意工夫次第では）あなた様を偉大な芸術家にするばかりではなく、（私が思うに）今日のヨーロッパでもっとも有能な評者にもするでしょう。〔ここで私が言うのは〕紳士階級の（という意味）であって、技芸の教師の（という意味）ではありません〔傍点訳者〕。この見解は、ローマで印刷された詩の一葉³によって裏付けられます。それは、あなた様が彼の地へ赴いた折、ある音楽の集いで、ヴァイオルによるあなた様の素晴らしい表現力によって生み出されたものです。その音楽の集いには、何人かの外国政府の大使、宮廷や都市の様々な高官ばかりではなく、最高に高く評価されているローマの著名な音楽家たちも出席しており、あなた様の音楽の知識、そしてあなた様の卓越した楽器演奏にみな敬服しております。私はあなた様ご自身や、私たちの国家、加えてそれら詩の著者の正当性を示さんがために、あえて次のページに再録いたします。それは私の申し上げたことを正当化するためだけでなく、あなた様を完璧へと導いたのと同じ手引きを利用する人々に激励を与えんがためです。もうあまり長くはお引き留めたくありませんが、私にはあなた様にお知らせしなければならないことがもうひとつございます。それは、以前の英語版よりもこのラテン語版のほうが私たちのディヴィジョン・ヴァイオルを伝えやすいということです。ラテン語に訳した紳士は、あなた様の親切な知人であり、私の敬愛する友人、そして時には音楽の学者でもあるウィリアム・マーシュ氏です。それによってこの本は、余所の地域でも理解されるようになることでしょう。さらに、私は外国と同様に自国でもそれが有用であるよう、私たちの言語も共に加えております。これが、あなた様がまだご存知でないはずで、私が申し上げるべきことのすべてであります。

閣下へ、

あなた様の真正かつ卑賤なる僕
クリストファー・シンプソン⁴。

¹ Christopher Simpson, *The division-violist, or, An introduction to the playing upon a ground*, London, 1659.

² 注4を参照。

³ 次ページを参照。

⁴ 17世紀半ばのイングランドを代表する理論家、ヴァイオル奏者、作曲家。1642年に勃発したイングランドの内戦では国王派として戦った。その内戦は議会派の勝利により、1649年に国王の処刑という結果に終わる。その「邪悪な時代」に、シンプソンはロバート・ポールズから屋敷を提供されるなど手厚い保護を受けた。さらにロバートの息子、ジョンとも生涯にわたって良好なバトロン関係を保ち続け、本書はジョンに捧げられることになる。

EXIMIÆ NOBILITATI, DOCTRINÆ, VIRTUTI
cum summa Musices harmonia consono adolescenti,
ILLUSTRISSIMO DOMINO,

D. IOANNI BOLLES,

ANGLŒ,
ROBERTI BARONET. HÆREDI FILIO.

*Mirificam suavitatem ejusdem & argutiam in tangenda Britanica
Chely, quam Vulgò dicunt VIOLAM MAJOREM stupori Romæ fuisse.*

O D E
JACOBI ALBANI GHIBBESII, MED. DOCT.
AC IN ROMANA SAPIENTIA ELOQ. PROF. PRIMARI.

RES suas dicam sibi habere Phœbo,
Te modis aures retinente nostras :
Quale solamen Samius negarit

Doctor Olympo.

Quantus Alcides animos triumphas,
Gallico major ! trahat ille vulgus :
Roma Te vidit stupefacta primos

Ducere patres ;

Roma tormentum fidium infecuta
Dulce, concentus licet ipsa mater.

Allobrox miræ Venetisque plaudit

Nuntius arti.

Vividum claro, celebrémque alumno
Laudo *Simpsonum* : vaga fama quantum
Theslali cultu juvenis magistrum

Distulit orbi.

Hactenus plectrum, citharamque vates
Noverint ; *Arcu Violæque* freti
Concinent posthac : nequè Thressa certet

Chorda *Britannæ*.

O virum felix, & opima rerum

Albion, sedes placitura Musis !

O poli fidus mihi, quò remotam

Dirigo puppim !

à Museo nostro, Kal. April. 1661.

Monumentum, & pignus amoris.

ROMÆ, Excudebat Franciscus Moneta. MDCLXI. *Superiorum permissu.*

読者へ

私はこの本の通読に（自らの義務と同様に職務のもとではあったけれども）大いなる喜びをもって取り組んだ。それは、その著者と主題の両方に対する尊敬からで、前者は私の親しい友人であり、後者は私のこよなき楽しみ、喜びなのである。この本を徹底的に熟読した今、私が得た多くの恩恵と満足とを世間に周知させないならば、いささか公德心に欠如していると言わざるをえない。それは、『ディヴィジョン・ヴァイオル、すなわちグラウンド上の即興演奏技法』という題名を有しており、内容と方法、双方のための無理なく到達できる最高点への要求に確実に応えているのである。とはいえ、私はそれを最高のものであるとは断言できない。（実際、）私がみるところではこの主旨に関して存在する唯一の著作だからである。そして、それ〔第2版〕は初版〔の内容〕を完璧へと近付けたという点で、疑いなくこの著作をいっそう価値のあるものにする。それはきわめて教育的であり、全ての能力〔程度〕の人にも適応させることができる許容範囲をもつ著書で、この本〔を用いるの〕に、賢すぎたり愚かすぎたりする方が有利ということはないのである。手短かにいえば、ヴァイオルを扱う技術及び知識に関して、それが手であれ技能であれ、（その楽器演奏の卓越性において）この本を傍らに置いている者は誰でも、世界中で最も優れた個人教師のひとりを手近に置いているのであると断言し得る。付け加えるならば、（題名からも明らかのように）〔この本は〕特にディヴィジョン・ヴァイオル向けに書かれてはいるが、しかし、グラウンド上でディスカント及びディミニュションの使用に直面したとき、あらゆる種類の音楽においても枠を超えて利用しうる著書である、ということがわかるであろう。

ロジャー・レストレンジ⁵

訳者あとがき

本訳稿は Christopher Simpson (1605 頃 -1669) 著 *The Division-Viol, or, The Art of PLAYING Ex tempore upon a GROUND. DIVIDED INTO THREE PARTS. EDITIO SECUNDA*, London, 1665 の、著者による献辞および楽譜出版権所有者による推薦文の全訳である。本書の本文が羅英対訳になっていることは献辞によって明らかにされているが、これまでに訳出してきたのはすべて本書の英語部分である。本文の訳出は本誌前号をもって完了しており、今号の訳出で、英語部分に関してはすべて訳出し終えたことになる。

この一連の訳出作業は、平成 19 年度の大学院授業である「音楽学演習」および「音楽学特講」において、英文による歴史的音楽文献の講読を目的として着手され、6 年の長きにわたって同授業の課題として取り組んできた。これまでに、延べ 67 名の院生（博士課程前期および後期）と助手・助教が訳出に関わってきている。関わった院生の多くはすでに社会に出て、大学や中等・初等の教員として活躍しており、すべての訳出を終えた今、訳者代表たる千葉も広島大学を定年退職することとなった。彼らが院生だったころの楽しかった授業を顧みて感慨深いものがある。

なお、訳文中にある（ ）は原文中に実在する補記であり、訳者による補記は〔 〕で明示した。脚注はすべて訳注である。なお、訳出に当たって使用した底本は、1955 年にロンドンの J.CURWEN & SONS LTD から出版されたファクシミリ版である。

訳者代表 千葉 潤之介

⁵ ロジャー・レストレンジ Roger L'Estrange は、イングランドで音楽のパトロンとして知られたレストレンジ家の一員。一族は音楽愛好家であるとともに楽譜の蔵書家としても有名。ロジャー自身は、有能なバス・ヴァイオル奏者としても名を馳せるとともに、チャールズ 2 世統治下（1660-85）においては楽譜出版権を有した。